

「虐殺の村、天井にシート」

「コソボ難民支援の近藤さん報告」

もようでき敷倉

A M D A (アジア医師連絡協議会、本部・岡山市) のコソボ難民緊急支援プロジェクトの調整員としてコソボ自治区に派遣されていた倉敷市出身の近藤麻理さん(三三)が八日、同市水江のイオン倉敷シヨ

ッピングセンター・セントラルコートで活動報告会をした。ビデオも使って実情を訴え、聴き入る買い物客の中には涙を浮かべる人もいた。会場では、持ち帰った現地の手もたちの絵画展も始まった。

子らの絵画展示も

付けている。

近藤さんは六月にコソボ入り、九月に一時帰国した。

絵画は、同村の六一四歳の子もたちの五十四点。

報告会では、百九十七人が虐殺されたというクルーシャ村などでの活動を説明。復興は進んでいるが、破壊された家の天井にシートをかけるなどして暮らし、迫る冬の備えができず、危機感を抱いている、などと話した。そんな中で、子どもたちの笑顔が印象的だったという。

クレヨンで、焼けた家や国連ヘリなどが描かれている。展示場所は九日もセントラルコート。十一・十四日はイオン北コートで、倉敷市内の小中学校からも、コソボへ贈る絵を募っている。

報告会は九日も午前十一時、午後一時、同三時の三回ある。会場でコソボの人たちへのメッセージを受け

また、八日は、イオン倉敷の核店舗・ジャスコの従業員らが持ち寄った小物類などのチャリティーバザー



コソボ難民の子もたちの絵について話す近藤麻理さん。会場横では、チャリティーバザーも＝倉敷市水江のイオン倉敷ショッピングセンターで

があった。